第１１回軍縮・不拡散イニシアティブ（ＮＰＤＩ）ハイレベル会合
岸田内閣総理大臣　発言（令和４年８月１日）

御列席の皆様、

本会合の開催に御尽力されたオランダ政府に感謝申し上げます。外相時代に力を注いだＮＰＤＩの会合に、今度は、総理大臣として出席できることを嬉しく思います。

２０１４年の広島での外相会合を含め、前回の２０１５年会議に向けて、ＮＰＤＩで何度も議論を重ね、合意文書案を提出するなどして臨みましたが、残念ながら合意文書の採択に至りませんでした。

それ以来、国際社会の分断は更に深まっています。今回、私は、強い懸念と危機感をもって、日本の総理大臣として初めて、ＮＰＴ運用検討会議に臨んでいます。

「核兵器のない世界」への道のりは一層厳しくなっていると言わざるを得ません。しかし、我々は、いかに道のりが厳しいものであったとしても、この理想に向け、現実的な歩みを一歩ずつ進めていかなくてはなりません。

その原点となるのはＮＰＴです。５０年以上にわたり、国際社会の平和と安全を支えてきたこのＮＰＴを維持・強化することは、国際社会全体にとっての利益です。今回のＮＰＴ運用検討会議が意義ある成果を収めるよう、今全締約国が糾合すべき時です。

分断深まる国際社会において、立場の異なる国々が共通の利益のために糾合する。そのためには、ＮＰＤＩの役割が重要です。

ＮＰＤＩは、多様な立場に基づきつつも、核軍縮・不拡散分野に関する議論をリードするキープレーヤーがそろっています。また、ＮＰＤＩは、ランディングゾーン・ペーパーをはじめ、ＮＰＴ全締約国が共有できる議論の基盤を提供しています。これらの作業にあたり、調整国として中心的な役割を果たした豪州とオランダに敬意を表します。

私は、先ほどの一般討論演説において、「核兵器のない世界」という「理想」と「厳しい安全保障環境」という「現実」を結びつけるための現実的なロードマップの第一歩として、５つの行動を基礎とする「ヒロシマ・アクション・プラン」を表明しました。特に、その重要な構成要素である核戦力の透明性向上は、ＮＰＤＩが立ち上げ以来実に１２年以上にわたり主張してきた重要なポイントでもあります。

いかに険しい道のりであろうとも、「核兵器のない世界」に向け、ＮＰＤＩの友人の皆さんと共に歩んでいきたいと思います。

そのためにも、まずは、今回のＮＰＴ運用検討会議が意義ある成果を収めることが極めて重要です。そのために、日本は、ＮＰＤＩメンバー国と共に全力を尽くす所存である、このことを申し上げて、私の御挨拶とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。